

市町村の人材不足課題

インフラメンテ 戦略的広報必要

フォーラム
クオー
キッ

公共インフラの維持管理に関する地方自治体の支援や技術開発の推進に向けた情報交換、技術のマッチングなどを目指す産・学・官・民の活動組織「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」は7月30日、福岡市内でキックオフフォーラム「九州におけるインフラメンテナンスの課題」を開いた。写真。講演やパネルディスカッションがあり、パネリストらは橋梁やトンネルなどの維持・補修に関して地方自治体の技術者不足が課題と指摘。民間の新技术を生かせる場づくりやインフラメンテナンスの重要性などについての広報が重要とする意見が出た。

新技術生かせる場も

地方自治体や建設業関係団体などから約300人が参加。開会あいさつで松田浩長崎大学副学長兼教授・インフラ長寿命化センター長は「インフラメンテナ



スの理念の普及や市民参画が大切。土木分野のメンテナンスを税金で賄っていくための合意形成を図ることが大事だ」などと述べた。「インフラを取り巻く状況とインフラメンテナンス革命」と題し講演した吉田邦伸国土交通省総合政策局事業総括調整官はインフラメンテナンス国民会議など国交省の取り組みを紹介し「九州は全国に比べ気象条件が厳しい。その中で機能を発揮させるためにはインフラのメンテナンスが大事」などと話した。「長崎市におけるインフラメンテナンスの取り組み

み」と題し講演した森尾宣紀長崎市中心総合事務所理事は、道路の陥没などが原因の事故の多発や管理する職員の不足を課題に挙げ、長崎大学との技術連携や人材育成の取り組みを紹介。インフラメンテナンス国民会議に対して持続可能なメンテナンスの技術支援を求めた。

「九州フォーラムへの期待」をテーマに行われたパネルディスカッションでは片山英資ツタワールドボク代表理事がコーディネーター、澁谷博昭福岡県東峰村長、木下義昭熊本県玉名市建設管理課参事、高山美佳LOCAL&DESIGN社長、松田氏、藤巻浩之九州地方整備局企画部長がパネリスト、吉田氏がアドバイザーとして登壇した。インフラメンテナンスの課題について澁谷氏は「小規模な地方自治体にとって技術力がないことが最大の課題。どこかに技術集団をつくらざるを得ないので

ないか」と指摘。木下氏は市職員自らが施工する橋梁補修の取り組みを紹介し建設業の人材の大量離職を見据え「市町村は危機感を持つべきだ」と訴えた。藤巻氏は「先進的な地方自治体の取り組みを仲立ちし、水展開する」こともフォーラムの役割だとした。官民連携、市民との連携の在り方に関しては高山氏が土木技術者のイメージを一般に伝えることの大切さを説き、藤巻氏は一般への広報と同時に続く人材を確保するためにも「組織内の広報も重要だ」と述べた。澁谷氏は行政が実績に

とらわれず「民間の」新しいイノベーションを生かせる場を門戸を開いて設ければコスト削減にもつながるのではないかと提案した。